

## 平成30年度全国学力・学習状況調査の 結果をふまえた指導改善策

### I 調査の概要

#### 1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 上記のような取組みを通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査の対象

小学校第6学年・義務教育学校第6学年の児童

#### 3. 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）
  - ・主として「知識」に関する問題（A）
  - ・主として「活用」に関する問題（B）
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
  - ・児童に対する調査
  - ・学校に対する調査

#### 4. 調査日時

平成30年4月17日（火）

### II 学力調査の結果【小学校・義務教育学校前期課程】

#### 1. 教科に関する調査結果（平均正答率※）

|         | 国語A  | 国語B  | 算数A  | 算数B  | 理科   |
|---------|------|------|------|------|------|
| 全 国     | 70.7 | 54.7 | 63.5 | 51.5 | 60.3 |
| 広島県     | 73   | 59   | 66   | 54   | 63   |
| 府中市     | 75   | 60   | 67   | 54   | 63   |
| (南) 小学校 | 79   | 64   | 76   | 58   | 71   |

※平均正答率とは、「児童の正答数の平均」÷「設問数」の値を、%で表わしたものです。

## 2. 調査問題の趣旨・内容

| 区分      | 調査問題の趣旨・内容例  |
|---------|--|
| 国語<br>A | <p><b>基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。</b></p> <p>(例) ○相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す。<br/>○自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える。<br/>○登場人物の心情について、情景描写をもとに捉える。<br/>○文の中における主語と述語との関係などに注意して、正しく文章を書く。</p>  |
| 国語<br>B | <p><b>基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。</b></p> <p>(例) ○相手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。<br/>○目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。<br/>○目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む。</p>   |
| 算数<br>A | <p><b>基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。</b></p> <p>(例) ○1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表す。<br/>○単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解する。<br/>○示された表現方法を基に、空間の中にある物の位置を表現する。<br/>○折れ線グラフから変化の特徴を読み取る。</p>  |
| 算数<br>B | <p><b>基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。</b></p> <p>(例) ○示させた考えを解釈し、条件を変更して考察した数量関係を、表現方法を適用して記述する。<br/>○折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述する。<br/>○合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見出す。<br/>○メモの乗法とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する。</p>                |
| 理科      | <p><b>基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題。</b><br/><b>基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題。</b></p> <p>(例) ○実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を次述する。<br/>○実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善する。<br/>○骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解する。<br/>○土地の浸食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する。</p> |

### 3. 調査結果にみられる特徴と課題及び今後の改善策

#### 【国語】特徴と課題

- ◇文の中における主語と述語の関係などに注意して文を正しく書き直す。(県+31%)
- ◇相手や目的に応じ、自分の伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す。(95%)
- ◇無答率が低い。(0.5%)
- ◆目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書く。(25%)
- ◆目的に応じて複数の本や文章などを選んで読む。(40%、県 -12.9%全 -9.4%)

◇…相当数の児童ができている点 ◆…課題のある点

#### 【国語】改善策

- ・複数の条件に合わせて的確に書くことができるよう練習をする。複数の条件に合わせて文章を書く場面において、通過率80%を目指す。
- ・「おすすめする文章」にふさわしい言葉遣いを知り、文章を書く。
- ・複数の資料を読み、関連付けて考えたことをまとめる活動を行う。
- ・フォローアップテストにおいて、通過率80%を目指す。

#### 【算数】特徴と課題

- ◇混み具合の問題が正答率100%だった。
- ◇折り紙の輪の色の規則性を正しく解釈し、条件に合う色を判断することができている。
- ◆2つの棒グラフを比べて読みとることができていない。(15%)
- ◆何について書かれたグラフなのか正しく読み取れていない。(15%)

◇…相当数の児童ができている点 ◆…課題のある点

#### 【算数】改善策

- ・2つの棒グラフを比べて読みとることができるように、グラフを読み取るときに「多い」「少ない」ではなく、「変化」を読み取る活動を行う。
- ・グラフの種類が違うもの(棒グラフと帯グラフ)を比べながら、正しく読み取る。
- ・他教科においても、グラフや図を読み取る学習活動を設定する。
- ・複数のグラフから情報を読み取る問題に取り組む。

## 【理科】特徴と課題

- ◇堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している。(100%)
  - ◇安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想できる。
  - ◆より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる。(25% 全国+4.9)
  - ◆実験結果から電流の流れ方について、妥当な考えに改善できる。(55% 全国-4.4)
  - ◆調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析できる。(65% 全国-11.2)
- ◇…相当数の児童ができている点 ◆…課題のある点

## 【理科】改善策

- ・「流れる水のはたらき」の実験回数をできるだけ多く行う。結果を分析する時に、因果関係を分析し、キーワードを使ってまとめをしていく力を付ける。異なる結果が出た時に、なぜ成功したのか、失敗したのかを考えさせる。
- ・「電流のはたらき」は、回路を流れる電流の向きと大きさについて、実際に検流計を使っての実験を丁寧にできるだけ多く行う。
- ・仮説とその仮説に基づいた実験結果の予想をさせ、実験結果の比較から考察させることを通して、何が、何によって、どうなったのかを論理的に説明・記述できるようにさせる。

## Ⅲ 学習状況調査の結果

### 1. 学習状況調査（児童質問紙）の結果にみられる傾向

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも高かった項目

- ・自分には、よいところがあると思いますか。
- ・5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも低かった項目

- ・将来の夢や目標を持っていますか。
- ・学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

### 2. 生活習慣・学習環境などに関する改善のポイント

- ・コミュニティ・スクールや保護者の人達と学ぶ地域学習や平和学習などを通して、そこに携わる人の話や姿などから、生き方や将来のことなどについて自分のこととして考えられるように授業を系統的に進める。
- ・児童の意見や考えを大切にされた授業を行うことで、友達相互が認め合える学級集団づくりを行う。
- ・児童が自分の考えをもち、それをグループや集団の中で発表できる時間や場を意図的に設ける。また、友達の話聞いて、自分には無かった新たな考え方に気づくことができるよう、意図的指名やアナウンスを効果的に取り入れた授業づくりを行う。